

V. 特記事項

1. ディプロマ・コースについて

本学では、令和元（2019）年度より、専攻実技の研鑽を積みたい人のために「ディプロマ・コース」を設置した。本コースは、声楽ソリスト、ピアノ・ソロ／アンサンブル、弦楽器（ソリスト／オーケストラプレイヤー／コンサートマスタープリンシパル・コース）、管打楽器ソリスト、ジャズ インストゥルメンタルの5コースを配置しており、本学が設置するほぼ全ての専攻楽器を対象に、本学教員の実技レッスンを受講することができる。専攻実技レッスンは、いずれの場合も1回45分のレッスンを年間10回又は20回（コースにより異なる）履修することができる。本コースの受講には選抜試験の受験が必要で、また修了するには通算2年以上在籍のうえ、修了試験の合格を課している。

本コースは、音楽大学卒業程度のレベルを対象とし、実技レッスンを中心により高度な専門性を追求することにより、演奏技能に対して非常に高い質の保証に努めている。本学卒業生の卒業後の進路としても選択肢の1つとなっている。

令和5（2023）年度における在籍者数は、前年から継続している在籍者52人、令和5（2023）年に新規に入学した在籍者45人、計97人である。

2. 国立音楽大学同調会について

「国立音楽大学同調会」は、昭和3（1928）年に第1回本科卒業生（東京高等音楽学院時代）を輩出したと同時に、母校発展の支援や会員相互の親睦、また我が国の音楽文化の振興を図ることを目的に発足した同窓会で、現在、48同調会（国内45、国外3）に分かれ、計45,000人を超える会員により組織されている。

主な活動としては、在学生と各同調会をつなぐ事業運営や、各同調会主催のコンサートの支援などが挙げられるほか、毎年「ホームカミングデー」を本学講堂で開催している。また同調会「くにたち賞」は、活躍する卒業生を表彰することを目的として、平成29（2017）年に設立した表彰制度で、大学と同調会が協同して受賞者の選考を行っている。さらに在学生支援として、学部3、4年生と大学院修士課程2年生を対象とした給付型奨学金「同調会奨学金」（20万円）を支給している。

同調会からはそのほか、昭和57（1982）年の講堂大ホールのパイプオルガンやコンサート・グランド・ピアノの寄贈をはじめとして、楽器や機器などの寄贈がなされてきたが、近年では、令和3（2021）年度に新型コロナウイルス感染症のコロナ禍における学生支援を目的として500万円の寄付がなされた。

このように発足94年目を迎える本学卒業生組織である同調会は、単に卒業生を支援するのみならず、現在においても本学の在学生支援やまた教育環境支援において深い関わりを持ち続けながら全国各地の音楽文化振興に寄与している。